

No.	章	ページ	意見内容	対応内容
1	第2章及びアンケート結果報告書について	市民向けアンケート P4 文化芸術団体向けアンケート P5	アンケート結果報告書のまとめ方をもっと工夫すれば読み手がより読みやすくなるのではないかな。 具体的には、市民向けアンケートの調査結果概要について以下の4つにまとめられるのではないかな。 （1）市民の文化芸術に対する意識 （2）文化芸術活動に対する取り組み状況 （3）活動を阻む要因について （4）弘前市が積極的に取り組まなければならないこと 現在の書き方だと4つの項目が並列関係であるように読めるので、上記の4つを軸として各結果を整理したほうが読みやすいのではないかな。 →（議長） 事務局も今回の調査結果概要は並列ではなく連動しているものとして記述していると思う。どこを軸にするかは別として、ご指摘のとおり、表記の仕方としてどのようにまとめるかを考える必要がある。	ご意見を踏まえ修正しました。
2	第2章及びアンケート結果報告書について	P26	アンケートの調査結果概要と課題の関係性が見えづらいため、話の流れがわかりづらい。調査結果の各項目がそれぞれどのような課題につながるかを計画素案本文中のどこかに文言を入れると読み手が理解しやすいのではないかな。第4項の最初に、どのような目的で本項を書いているかという見出しのようなものがあればよいのではないかな。	ご意見を踏まえ修正しました。
3	第2章及びアンケート結果報告書について	P27	計画素案第3章第4項（P.25）については、例えば課題①「子どもたちに対する文化芸術に触れる機会の促進」を「子どもたちが文化芸術に触れる機会の不足」といったように、課題の形で表記を統一したほうがいいのではないかな。その課題を踏まえて前向きにこうして取り組みましようという形にすれば、先ほどの意見であったように話の流れがわかりやすくなると思う。	ご意見を踏まえ修正しました。
4	第2章及びアンケート結果報告書について	-	市民向けアンケート問10（P.31）の選択肢の中に「行政から個人活動家に支援してほしい」という選択肢も必要だった。団体だけでなく個人活動家も施設使用料や駐車場料金の負担が大きいので、その支援を求める声を拾える選択肢を用意すべきだった。	他の設問で同様の選択肢を用意しており、その結果も踏まえて分析しています。
5	第2章及びアンケート結果報告書について	-	市民向けアンケート問10（P.31）の選択肢の中に「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」という選択肢はあるが、教育委員会と連携についての選択肢もあればよかった。	「子どもたちが文化芸術に親しむ機会の充実」という選択肢は、学校生活の中での文化芸術も含んでおり、第4章の中でも、教育委員会所管部分についても言及します。
6	第2章及びアンケート結果報告書について	-	ねぶたの運行団体を文化芸術団体向けアンケートの対象に含めるかという論議を提案することを忘れていた。	次回団体向けアンケート実施の際に追加を検討します。

No.	章	ページ	意見内容	対応内容
7	第2章及びアンケート結果報告書について	-	アンケート調査結果で文化芸術活動や催しの情報が一般市民の身近に伝わらないとあったことに関連して、アンケートでは、動画配信のほうに偏りすぎていたので、その手前の、インターネットを使った活動の紹介を入れたほうがいいのではないかと。 実際にやっているのかもしれないが情報が届いていないかもしれないので、それも入れてほしい。 《小川会長》 コロナ禍においてリモートが意識されているという社会情勢もあったと思うが、ご指摘のとおり、段階的に情報を集約し発信をしてその環境を整えていくという流れを再度確認しておく必要がある。	今後、情報発信を強化していきますが、ご意見を踏まえて、段階的に情報を集約して発信することに留意してまいります。
8	3章	P32 P33 P41	第2項の基本目標4（P.31）の中で「貴重な文化財や伝統文化を守り」という記述があるが、これだと現状維持という意味合いがある印象があるので、「守り」ではなく「深め」などの表現にしたほうが発展性を感じさせると思う。 ⇒基本目標4の「守る・繋ぐ」という表現は現状維持の意味合いが強く感じる。発展していくのが人間なので、発展性を持つ文言に変更してほしい。 ⇒「守る・繋ぐ」という文言は内向きの印象がある。「守る・繋ぐ」の後に、どこかに発信するような印象の文言があればいいと思う。 ⇒「深める」という文言は垂直に深くなる印象がある。発展していく、外向きに広がっていくという印象であれば「深め・広げる」という文言だとどうか。 ⇒受け継ぐのは現在の人々の役割だ。「将来に発展させていく」のであればわかるので、文言を工夫してほしい。	ご意見を踏まえ修正しました。

No.	章	ページ	意見内容	対応内容
9	3 章	P35 P38	第2章ではSDG sを意識した計画としているので、いろいろな特性を持った人たちにも届く情報の発信ということがどこかに入るといいと思う。第4章ではどこかにその要素を織り込んでいるか。 特に利用するメディアや言語などを意識されるとよいと思う。他自治体でもその意識を強く持っているところがある。どのメディアだとどの人たちに伝わるといった具体的などころまでは書いていないが、意識しながらやっているというのを感じる。 《小川会長》 情報アクセス困難者は、文化芸術に関心を持っていても情報にたどり着けないという実態があるのでそこにどう配慮していくのが重要な視点となる。それが、第2章でSDG sを掲げている大きなポイントになると思う。市民向けアンケート結果報告書のP.36～37は、文化芸術活動をともに行うことをとおして、いわゆるマイノリティの方の孤立予防や交流を深めていくことに貢献するというアンケート項目の結果（文化庁も同じ設問でアンケートを実施）が記述されている。この結果が基本目標の冒頭に盛り込まれると、多様性の尊重に着目するポイントとしてのインパクトがあり、そのあとの情報発信やアクセス性を大事にするという話につながるのではないかな。また、言語や使用するメディアの問題についても、例えば点字やろうあ者に対する支援など一言入れるだけでも大きく雰囲気が変わるので、再度検討してほしい。	ご意見を踏まえ、弘前市障がい者計画にある情報バリアフリーに関する記述を参考とするとともに、それと整合を図り、追記しました。
10	3 章	P31	基本目標2（P.30）に記述がある「環境づくり」という文言はあまりにも抽象的なので、具体的に何をするかを記述したほうがよい。 《小川会長》 第2節については、P.31にはまだ余白があるので、この余白を埋めるくらいのボリュームで具体的な記述を増やしたほうがよい。	ご意見を踏まえ修正しました。
12	4 章	P33 P34	第1節（P.33）に「鑑賞・参加機会」と「鑑賞・体験機会」の表記があるので、どちらかに統一したほうが良い。	ご意見を踏まえ、「鑑賞・参加機会」に統一しました。
13	4 章	-	第5章の取り組み内容については、例えば教育委員会がどういうことをやっているのかなど、情報提供の意味でももう少し具体的に担当部署がわかる表記にしたほうが良いのではないかな。	今後、施策に紐づく事業一覧を整理し、その中で各事業ごとの担当課を明記する予定です。 また、事業一覧については、進行管理の中で市民にも広く公表したいと考えております。

No.	章	ページ	意見内容	対応内容
14	4 章	P40	基本目標 4 の 2 の「後継者育成への支援」（P.38）では、アンケート結果報告書に会員の高齢化という団体の悩みがあることから、若い世代の取り込みについての記述をしていると思う。 ただ、若い世代の中には既存の団体の活動に参加せず別な活動をしたい人もいると思うので、新しい活動の創出についても言及したほうがよいのではないかな。	ご意見を踏まえ修正しました。
15	4 章	-	基本目標 1 の文化芸術イベントに関する情報発信と文化施設の利便性や機能の向上（P.34）に関して、既存の文化施設の機能や利用についての情報の集積があまりされていないと思う。文化施設の利用に関する情報を収集し、設備等の更新などを発信すればより利便性が高まると思う。 《小川会長》 利用者にとっては、自分たちの活動に適合するかを市に確認しなければならないことが活動意欲の減退につながってしまうので、1つの情報媒体で確認できるように、もしくは予約システムも有効だと思うので、所管部署を横断しての対応ができることが望ましい。 公共施設だけでなく民間団体の所有施設の情報も 1 つに集約できればなお望ましい。	文化芸術イベントに関する情報の収集と発信は、優先度の高い取り組みと考えていることから、ご意見については、今後の具体的取り組みを検討する際の参考といたします。
16	4 章	-	基本目標 2 の「公共施設の利用促進」（P.35）で、「利用しやすい使用料・利用料の検討」という記述があるが、鑑賞会等の料金だけではなく活動に対して、特に子どもの活動に対する支援はできないか。 市民の利用については使用料減免等の優遇措置を検討してほしい。 《小川会長》 市も財政に余裕がない状況ではあるが、アンケート結果でも使用料の低減の要望が出ている中で、どのように対応するのか、低減できないのであればその対案として何ができるのかを示すことが重要となる。	子どもの文化芸術活動を支援する観点も踏まえて、具体的な支援内容を検討する際の参考といたします。
17	4 章	-	基本目標 1 の「2）気軽に文化芸術に親しむことができる機会の提供」（P.33）に関連して、弘前市が運営する文化芸術を学ぶ教室があればいいと思う。平日と休日で顧客層を分け、講座は年ごとに徐々に増やしていけばいい。 弘前市には文化芸術を教える人たちがたくさんいるので、その人たちが積み重ねてきたことを学ぶ場として機能すればいいと思う。 《小川会長》 各大学の施設を学生の利益のために市民に開放するというのは前向きな話なので、大学コンソーシアム学都ひろさきと連携して活動場所を模索するという手もある。大学生が文化芸術に触れる機会が増えれば、若い世代の活動参加につながるという好循環を生み出せる可能性もある。	公民館等で実施している文化芸術関連の教室・講座や、文化芸術団体等が実施している教室等とのバランスと、民業圧迫にならないよう配慮する必要があることから、今後の取り組みを検討する際の参考といたします。

No.	章	ページ	意見内容	対応内容
18	5 章	P5	市全体の取り組みについて定める総合計画の一部として、文化芸術振興の取り組みについて定める計画として位置づけられているということが読み手に伝わるように記述してほしい。	第1章第2節「計画の位置付け」に、弘前市総合計画及び弘前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の分野別計画として策定し、また、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業を関連分野として連携していく旨を記述しています。
19	5 章	P44	第2節「文化芸術施策にかかわる各主体の役割」（P.44～47）について、この記述だけだと各主体が別々に役割を果たすだけで完結するように読める。 各主体が協働・連携する場で討論を重ねながら活動することで、今まで積み重ねてきた文化芸術を継承しつつさらに深め拡げていく、というねらいを記述するとさらに良くなると思う。 《小川会長》 計画の推進については、審議会ではなく文化芸術の担い手である文化芸術団体等に実施主体を担っていただく形になる。計画の位置づけとしては、各主体が別々に動いているところを横断的につないでいくためのものというのが大きいので、この位置づけをあらためて第5章の前段で強調したほうがよい。 多様性の尊重、教育、福祉などを包含した形で、文化芸術を通じた市民の主体的なまちづくりにどう貢献できるかという話になるので、協働・連携の話を第5章の前段から一貫性をもって出していく形がよいと思う。	ご意見を踏まえ修正しました。
20	5 章	-	計画推進をよりわかりやすくするため、10年計画を第1期、第2期…のように分け、各期で具体的な目標を明確にしたほうが市民も市が何をやっているのか理解しやすくなると思う。 《小川会長》 第3節「計画の指標」（P.46）に盛り込む成果指標で各期の目標を立てればよいのではないか。	成果指標の中で目標を立てることとしております。
21	5 章	P46	第2節《教育機関等に期待される役割》（P.45）にある「かん養に努める」という言葉はわからない人もいると思うので、ほかの言葉に直したほうが良いと思う。	ご意見を踏まえ修正しました。
22	5 章	P46	同じく第2節《教育機関等に期待される役割》（P.45）で、「子どもたちの感性」を「子どもたちの <u>豊かな</u> 感性」としたほうが良いのではないか。	ご意見を踏まえ修正しました。
23	全体	-	市が文化芸術の細部にまで手を伸ばすと、かえって文化芸術団体や民間企業の活動を圧迫してしまうこともある。 型にはめず時代の変化に応じて発展するよう、既存の文化芸術だけでなく新しい文化芸術にも目をかけていくべきだ。 文化芸術の形ではなく心意気を継いでいけば次の世代で生きてくると思う。	本計画を策定するうえで、踏まえるべき基本的な考え方と認識しております。今後、具体的な取組みを検討する中でも参考とさせていただきます。
24	全体	-	多くの文化芸術を教えられる先生が各学校にいるわけではないので、入る学校によって児童・生徒が希望する文化芸術を選択できないこともある。 学校の外でスポーツのクラブチームが増えてきているように、文化芸術も学校の外で教えてくれるクラブなどがあればいいと思う。	地域で活動する文化芸術団体、NPO、企業などが教室やクラブのような形態で機会を提供しているのが現状であると認識していますが、ご意見を踏まえ、子どもたちに文化芸術に触れる機会より提供できるよう検討してまいります。